

義農作兵衛

作兵衛さんは、今からおよそ330年前、1688年（元禄元年）、筒井村（今の松前町筒井）の農家に生まれました。

父作平、母ツルの一人子でした。生活は貧しかったけれど勤勉な性格で、昼は田畑で米や麦作りなどに励み、夜は縄をなえ、わらじを作るなどよく働きました。

23歳の時には、タマと結婚し、長男作市、長女カメが生まれ、作兵衛さんはま

すます仕事に励みました。40歳くらいまでには、自分の田畑33アールと、小作地（地主から借りている田畑）15アールを持ち、村の人々のお手本となる農民になりました。

1732年（享保17年）、西日本全体が大飢饉におそわれました。3カ月も雨の多い天気の良い日が続いたうえ、夏になっても気温が上がらず、稲が育ちませんでした。そのうえ、ウンカが大量に発生して稲を食べつくしました。松前地区の被害はとて大きく、野に青草が一本もなしといわれるくらいでした。食べ物がなくなり、松前地区で餓死する人が800人を超えました。6月10日には父作平、8月5日には長男作市が餓死しました。母と妻は既に亡くなっており、家族は作兵衛さんと娘のカメだけになってしまいました。悲しみと飢えに打ちひしがれた作兵衛さんでしたが、気力を振り絞って田畑に仕事に出かけました。しかし、ついに倒れてしまいました。幸い仲間に助けられ、家に帰ることができました。家には、麦がおよそ一斗（18リットル）残されていました。作兵衛さんは、この麦を食べることを勧められましたが、「農業は国を支える大切なものです。作物の種は農業の本です。村に麦種がなくては、来年、田



に麦を植えることができません。麦種は自分の命より大事です。」と人々に伝え、1732年（享保17年）9月23日、麦種をまくらにしてなくなりました。10月2日には、長女カメも餓死し、作兵衛さんの一家全員が、享保の大飢饉の犠牲になりました。

村人達は作兵衛さんが残してくれた麦種を分け合って蒔き、翌年は豊作になりました。

作兵衛さんのことは松山藩に伝えられ、12月24日には、藩の命令で、「義農」と名付けられた作兵衛さんの墓が作られました。



1776年（安永5年）には、作兵衛さんの生き方に感動した松山藩の

殿様、松平定静により、碑文が造られました。

その後も、人々は作兵衛さんの生き方を見習い、後世に伝えようと、義農神社をつくり毎年4月23日に義農祭を行っています。松前町の人々は、今も作兵衛さんの心を「義農精神」として受け継ぎ、ボランティア活動などを行っています。

※ 1アール・・・一辺が10メートルの正方形の広さ

※ ウンカ・・・稲の害虫となる体長5ミリメートルほどの昆虫